

MOTTAINAI☆PROJECT

代表者 畑中千尋（人文B 2年）
構成員 石田結花（人文B 2年） 瀨崎康平（教育B 1年） 大隈由香（教育B 1年）

1. 本プロジェクトの概要

本プロジェクトは、大学内の国際交流会館に入居する留学生を対象に、帰国前の留学生から不要になった生活用品を募り、新留学生に配布するといった一連の活動をシステム化することで、目標の主軸である「新留学生の渡日サポート」を達成しようというものである。又、大学内のごみを減らすといった観点から大学環境の改善、活動を通じて国境を越えた学生間の交流・親睦が期待できる。

2. 新留学生の渡日後すぐの状況

本プロジェクトの活動内容を記述する前に、新留学生の渡日後の生活について説明したいと思う。というのもこの現状の緩和が常に我々の活動の背景にあるからである。今回は、9月16日に渡日した国際交流会館に入居する新留学生から伺った生活を例として挙げ、記述していく。

- 1日目 (9/16)： 渡日した留学生は福岡空港から山口大学のバスに乗り、夕方国際交流会館に到着する。その後近くのスーパーマーケットなどに夕食や翌日の朝食などを買いに出かける。
- 2日目 (9/17)： 朝から渡日サポーターとともに学内手続きやキャンパス内散策を行い、その後オリエンテーションを受ける。夜にはインターネットに関する説明会に出席する。履修登録を始める。
- 3日目 (9/18)： 山口銀行で各自口座を開設する。それ以降：各自で母国からの荷物の受け取りや、自転車・生活用品などの購入、インターネットの契約を行う。
- 10日目 (9/25)： 後期日程が始まる。

留学生が居住する国際交流会館の各部屋には、鍋やヤカンなどの調理器具や敷布団、自転車などが用意されておらず、又インターネット回線も契約されていないため、新留学生が渡日後各自で行うような仕組みとなっている。つまり彼らは慣れない環境の中で、学内の諸手続きに並行しながら生活用品を自分で調達しなければならないのだ。自転車を購入するまでは、一番近くにあるスーパーマーケット「Aruk」に行くことさえも容易ではないだろう（国際交流会館～Aruk間は約1kmある）。母国との気候の違いや日々の忙しさによる身体的な疲労に加え、緊張や不安といった精神的な疲労から体調を崩す新留学生も何人かいる。又、留学生の多くは、山口大学と学術交流協定を結んだ大学の学生である。学術交流協定校はアジア圏が最も多く、それに伴い留学生もアジア圏からの者が圧倒的に多い。これは表1の2014年度後期留学生国別内訳より見て取れるであろう。これらの国々の多くは、日本と比較すると物価が低いという傾向がある。つまり我々日本人よりも金銭的負担が大きくならざるをえないのだ。負担を少なくするために食費や光熱費の節約や不十分な生活環境を、自らが選ばざるを得ないという状況も存在している。しかしながら、このような状況下で購入した生活用品も、帰国前になるとほとんど全てが廃棄されてしまうというのが現状だ。つまり、まだ使える生活用品がゴミ捨て場に在りながら、新留学生は新たな生活用品を買い求めなければならないという事態が国際交流会館内で起こっているということである。次節からは、このような状況の緩和のために我々が取り組んだ活動について記述する。

3. 本プロジェクトの内容と方法

さて、本プロジェクトは以上のような現状の緩和を目標に、国際交流会館内の生活用品のリユースをシステム化するという活動を主として取り組んだ。以下からは本プロジェクトをひとつの企画として立ち上げるまでの一連の活動と、その際に留意した点について述べていく。

3-1 留意点

- (1) 回収する生活用品を保管できるような場所の確保を行う
- (2) 回収した生活用品がゴミとして廃棄されないような工夫を凝らす

3-2 活動内容

夏休みに帰国する留学生から募った生活用品を一時保管し、9月中旬に渡日する新留学生を対象とした配布会

表1 2014年度後期留学生国別内訳（括弧内の割合は総人数53人に対するもの）

国名	人数
<アジア>	計49人 (92%)
中国	20人
台湾	20人
ミャンマー	2人
ラオス	2人
バングラディシュ	2人
インド	1人
アフガニスタン	2人
<ヨーロッパ>	計3人 (6%)
ハンガリー	1人
ドイツ	1人
アメリカ	1人
<アフリカ>	計1人 (2%)
ケニア	1人

を実施することで、国際交流会館内の生活用品の循環を目指した。

(1) 保管場所の確保

まず初めに我々が行ったことは、回収した生活用品を1~2か月保管できるような場所を確保することであったため、学外の貸倉庫などについて調べた。しかし契約料や大学までの距離を考慮すると断念せざるを得ない状況であった。学生支援課の御厚意により学内の倉庫の一部が短期間貸し出され、場所の確保は完了した。

(2) 各部署への挨拶

次に行ったことは、留学生支援センターと学生支援課両部署への挨拶である。というのも、留学生支援センターの職員の方々には新留学生の渡日スケジュールを教えてもらう他様々な面で、又学生支援課の職員さんには倉庫の管理などでお世話になるからである。

(3) 帰国前の留学生を対象とした生活用品募集の告知

生活用品を集めるためには帰国前の留学生の協力が必要不可欠である。そのためFacebook上で告知を行い、協力者を募った。Facebookでの告知は協力者を募るだけではなく、活動自体の広告としても大きな役割を果たしたと言える。

(4) 生活用品の受け取りと倉庫への搬入 (8/6)

Facebookで生活用品を募ったところ、台湾人4人、韓国人1人が生活用品を快く寄付してくれることとなった。一人一人と日時を決め、彼らの引っ越しの準備を手伝いながら生活用品を箱に詰める作業を行った。その後箱に詰めた生活用品を倉庫に保管した。生活用品は表2の通りである。

表2 寄付された生活用品一覧

<調理器具>			
包丁	ボウル	フライパン	皮むき器
タッパー	まな板	ディッシュスタンド	お椀, どんぶり, 皿
ヤカン	麺棒	計量カップ	おたま
スプーン, フォーク	コップ, 湯呑	バット	
<生活用品>			
ハンガー	ドライバーなどの工具	使い捨てカイロ	ゴミ箱
ちゃぶ台	コロコロ	水きりネット	スポンジ
紙コップ	割りばし	布団	ビニールひも
漏斗	栓抜き	洗濯ばさみ	

(5) 留学生支援センターの方と打ち合わせ

留学生支援センターの職員さんに時間を割いていただき生活用品配布の企画を固めた。新留学生は9月16日に

国際交流会館に入居するということ、更に彼らのその後の予定や予想される動きについて教えていただき、それらの情報を参考にしながら渡日2日目である17日に開催日を定めた。又配布場所として国際交流会館1号館第1研修室の使用許可をいただき、時間は留学生オリエンテーションが終了した直後の16:00～18:30に決定した。

(6) ポップ・ポスター製作 (9/11)

生活用品をごみとして廃棄しないための対策として、各生活用品の使用用途を明確にするポップの製作に取り組んだ(図1参照)。新留学生の語彙力・読解力向上のために日本語のみで記述したが、内容を理解できるようルビやイラストを積極的に用いるなどの工夫を施した(図2参照)。又、新留学生への告知方法としてポスターを2枚作成し、国際交流会館1号館・2号館に掲示した。



図1 ポップ・ポスター製作

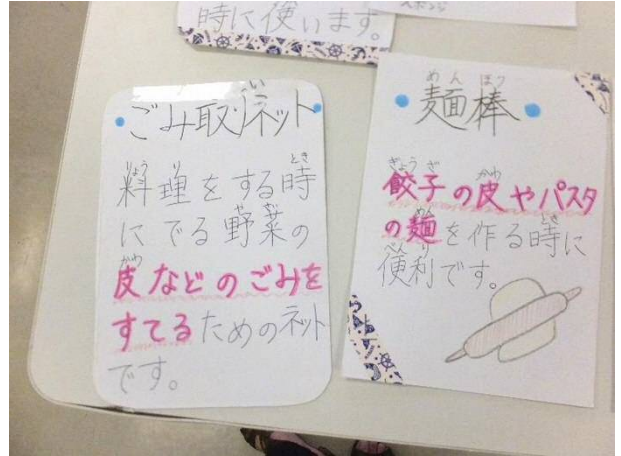


図2 完成したポップ

(7) 配布会当日 (9/17)

9:00に倉庫から国際交流会館へ生活用品を移動させる(図3, 4参照)。15:50に譲渡会場の準備を始める。机に生活用品とポップを並べ、来場者に自由に受け取ってもらえるような形をとった。物品を受け取った人を把握できるように受付も設けた。16:00に譲渡を開始する。開始前から何人もの留学生が部屋の前におり、開始後すぐに会場はおおいに賑わった(図5, 6参照)。16:40にはほぼ全ての生活用品がもらわれていった。18:30に片付け開始。生活用品はほぼ全てが新留学生の手へ渡った。割りばしやスプーンが残ったので、それは我々が受け取ることにした。

結果として生活用品のほとんどが留学生11人の手に渡り、危惧していたごみの発生も起こらなかった。更に新留学生との交流を深めることができ、翌日には一緒に昼食を食べるほどに進展した(図7, 8参照)。

(8) 各部署へのお礼とアンケートの実施 (9/18)

無事に本番を迎えることができたため、お世話になった留学生支援センター、学生支援課、自主活動ルームへお礼に行き、その際に今回の改善点・問題点に関するアンケートをお願いした。



図3 生活用品一式



図4 荷物運搬



図5 賑わっています!!!



図6 生活用品も新しい持ち主の元へ



図7 友好の証のお菓子!



図8 早速使われたちゃぶ台

(9) 反省会 (9/28)

MOTTAINAI☆PROJECTのメンバー全員で、今回の活動の反省と今後の活動内容について話し合った。

4. 2015年度前期留学生を対象とした譲渡会について

3月上旬より2名の大学職員の方から生活用品を寄付していただけるとの連絡があり、前期留学生を対象とした譲渡会を開催する予定が現在組まれている。開催日は渡日後2日目の4月1日、第1研修室にて2時間ほど行う予定でいる。

5. 山口県内13大学合同エコバスツアーへの参加 (2月13日)

2月中旬に山口県内13大学合同のエコバスツアーに、MOTTAINAI☆PROJECTとして代表の畑中が参加した。これは防府市クリーンセンターと食品再利用工場に行き、県内の環境問題に配慮した廃棄物の処理方法を学ぶという1日バスツアーである。「モノの流れ」の延長として、又環境改善という同じ目標であったため、参加を希望した。

このツアーでは、廃棄物の量の多さを実際に目にする事ができ、又大規模で行われているモノの再利用・再使用への取り組みも見ることができた。自分自身知らなかったことが多く、これからの活動や日々の過ごし方について考えさせられる良い機会となったのではないかと思います。

6. 協力してくださった皆様への御礼

このプロジェクトは決して私達MOTTAINAI☆PROJECTの構成員だけでは成し遂げられない企画でした。至らぬ点は多々あったもののこのようにひとつの形として企画が成立したのは、留学生支援センター、学生支援課、自主活動ルーム、生活用品を寄付してくれた留学生の皆さん、受け取ってくれた新留学生の皆さんのご理解とご協力があってこそものだと思います。1年間お付き合いいただき、誠にありがとうございました。